図書館だより

2024. 6. 28
発行：磐城高校図書館

図書委員の活動報告（図書委員連合会）

◇図書委員連合会とは？◇

いわき地区内の高校図書委員が集まり、会議・情報交換・研修などを通して交流をはかる活動です。今年度は磐城高校が事務局当番だったので、６月１７日（月）に本校で前期連合会が開催されました。

会議の後は、福島民報社新聞講座推進委員の鈴木俊也様を講師にお招きし、【新聞の活用法を身に付ける】をテーマに研修を行いました。

◆研修を受けた感想◆

今回の講演では、SNS やテレビと新聞はどこが違うのか、記者の人が何を意識しながら記事を書くのかなど、実際の新聞作りの現場がどう動いているのかといった話を中心に聞くことができました。

その中でも特に印象に残っているのは、被災地報道の際に【瓦礫】という言葉を使わなかったという話です。「コンパクトに分かりやすく情報をまとめるという、記者にとって大事な要素をあえて優先せず、回りくどい表現になっても、被災者の気持ちに寄り添ってその二文字の使用を避けた。」そういった思いで書かれた記事があると知ることができ、地元の情報を伝える新聞への見方が大きく変わる貴重な機会になりました。今後新聞に触れる機会を増やしていきたいです。

第９回ビブリオバトル校内大会

時：７月１日（月）16:20～　場所：図書館

観戦者大歓迎！　予約不要、開始時間に図書館へ！

図書委員のおすすめ本　テーマは【雨】
紹介本はすべて図書館にあります。

『黒い雨』　井伏鱒二／著　新潮社
新潮文庫　913-I

一九四五年八月六日、広島に原子爆弾が投下されました。さらにそこに降って人々を原爆病で苦しめたのが「黒い雨」です。

この本には主人公の日記が書かれています。原爆病と誤解される姪への疑念を晴らすために、当時の動向について記した被爆日記です。そこには原爆による被害が多く描かれていて、改めて戦争について考えさせられます。

読むと戦争や原爆への見方・考え方がかなり変わる一冊だと思います。　(O.Y)

『蒼海館の殺人』　阿津川辰海／著　講談社
講談社タイガ文庫　913-A-2

ある事件をきっかけに心を閉ざした名探偵の葛城。大雨が降り続ける中、彼の住む屋敷で連続殺人事件の幕が上がる。刻々と迫る洪水の中で、葛城たちは犯人を見つけ出すことはできるのか。王道かつ極上の本格ミステリー小説だ。

この本の魅力は緊張感のある描写と「臨場感」である。序盤から物語に引き込まれ、中盤から終盤にかけての手に汗握る展開が見どころだ。　(S.S)

『傘をもたない蟻たちは』　加藤シゲアキ／著
KADOKAWA　913-K

「――君はきっと何にだってなれるよ」

平凡な人生、限られた選択肢。葛藤の中で生きる私たちにとって、これは希望の雨になるのかもしれない。

生きづらさを抱えた人々に焦点をあてた６つの短編集。その人だけにしか感じることのできない生きづらさが、色鮮やかに描かれている。言葉が持つ本物の孤独の力を、あなたにも感じてもらいたい。複雑な多様性を問われる現代人にこそ、読んで欲しい一作だ。　(S.N)

！予告！

夏休みの長期貸出を
７月１日（月）から始めます！
貸出冊数無制限で、
８月２３日（金）まで
本を借りることができます！

！お願い！

文化祭古本市の本は、
まだまだ募集中です。
ご協力お願いします！

新着図書一覧は裏面→